

博物館における社会科歴史学習の事例報告

—指導例と感想文を中心として—

国 安 寛

I 秋田県立博物館の学習計画

近年、博物館活動は多様性をもってきており、いろいろな試みが各館で行われているようである。当秋田県立博物館では、年度当初に上司の指導もあって学校教育の場で積極的に利用する計画をたてた。これは利用できる施設や展示が設立時点で用意されていたからである。ここでの利用という場合は、生徒個人を対象とするのではなく、学校が組織的に計画的に利用することをさす。その目的としては、学校の学習を展示や実物資料によって積極的に補助し、また郷土学習に役立てようとするものである。

博物館学習の場合、学校側と館側のいづれが主体的に動くか意見の分れることであり、また両者のいろいろな事情を考慮しなければならないだろう。ここでまず学校が学習計画をもって来館した例を2・3紹介する。刈和野中学校では遠足の一環として博物館学習を計画してきた。博物館での注意事項をのべた上で「博物館では真理を追求するきびしさ、バスの中や昼休みには友とふれあうなごやかさ、そしてサーカスのおもしろさをとことん楽しむ、そんな三つの顔がほしい。」（「遠足についての注意と指示」5月14日学級会資料）と、単なる物見遊山の遠足に終らずに調和のとれた行事にしようとする意図がうかがえる。また平和中学校では博物館、動物園の見学を計画し、「県立博物館見学のみどころ」として、地質時代から原始時代にかけて質問を設定し、なお「秋田の歴史」について簡単な説明をかきこんでいる（「遠足のしおり」）。また秋田南中学校1年6組は、佐々田享三教諭のもとで、後述の教科学習を実施した。これはつぎの資料によって計画を知ることができる。同教諭のねらいは、日本列島の生い立ちを理解させ、原始時代の生活や社会の特色を考えさせると共に、秋田県の歴史的動きが日本史のどこに位置づけられるかを考えさせようとするものであり、具体的作業として年表作製を実施しようとしている。これ以外にも各校でそれぞれ博物館学習の計画をもって来館した場合があることを付記しておく。

さて、ここで秋田県博の全体的学習計画をのべるが、開館以来「博物館教室」の名称で続けてきた企画学習がある。対象は事業によっては「こども遊び大会」「化石採集会」など小・中学生を織り込んだ各層を対象しており、生涯教育にふさわしいものと考えている。これは当館で計画しほ集して行うもので、本年度は22回実施している。また、団体がテーマをもって館の施設・展示および資料を利用し、また職員を指導者に依頼するなどの希望があった場合には応ずることにしている。本年度は23回実施している。

また、義務教育学校に対しては3つに分けて対応した。第1に課題学習であるが、小中学校の児童・生徒が団体で見学する際に、単に漫然と見学せずに見学のポイントをおさえるため、館で学習カードを用意して引率教師と協議の上、見学前または見学後にカードを児童・生徒に手渡して記入させ、館でまたは帰校後にまとめを行うことにしている。このカードは現在のところ改善の余地があるが、展示を見ながら記入できるようにしてあって、7部門分小・中学校に分けて用意している。この実施にあたっては、少なくとも在館時間が1時間以上なければ無理であるので、学校にその旨を伝達し1時間以上の在館時間を要請している。

もう1つは教科学習であるが、この実施例については次項でのべることとし、ここでは館のシステムをのべたい。現在のところ展示資料の多い、しかも学校のカリキュラムと照応する理科（生物・地質）と社会科（歴史）を対象としている。これは学校のカリキュラムと関連づけて行うものであり、また密度の濃い学習を予定しているため、少くとも在館3時間以上をとってもらい、人数はクラス単位としている。学習の過程は、まず学習室で館全体の機能や学習のねらいを説明し、展示を見学した上で学習カードに記入する作業を行い、学習カードの確認やまとめの作業を学習室で行うことにしている。これは一応の型であって実際には担当の指導に一任している。また、指導者も本館職員や学校の担任（担当）教師のいずれか、または協力して実施してもよいことにしている。本年度実施したのは、社会科（歴史）学習を土崎南小学校6年4クラス（本館職員指導）、追分小学校6年1回2クラス（本館職員指導）、秋田南中学校1年1クラス（社会科担当教師および本館職員指導）、理科（生物）は秋田北中学校1年7クラス（本館職員指導）であった。

博物館における社会科歴史学習の事例報告

また学校のクラブ活動やサークル学習についても考えているが、2・3の指導例があるが、まだ組織的計画的な指導の経験をもたない。

秋田県立博物館の資料展示物に学ぶ歴史学習

(佐々田教諭立案)

1. 日時 10月29日(土)

午前10時50分～午後1時

使用教室教材教具 学習室 展示室 土器

学年担当者 秋田市立秋田南中学校

1年6組 佐々田亭三

田県の歴史的な動きを通して、年表を作成させる。のちの学習のため、教室に掲示し、歴史学習に郷土の歴史も加えるようにする。

2. 目的とねらい

(1) 地質時代のおもなできごと、グリーンタフ活動秋田の深海時代と石油形成などにふれさせ、日本列島の生い立ちについて理解させる。(下線教科書P.20)

(2) 「人類の進歩」(例 先土器時代～先土器時代の生活用具とナイフ型石器の分布圏、縄文時代と秋田、稲の伝来と北進…)にふれさせ①文字・記録のない大むかしの時代が、いろいろな研究によって、しだいに明らかにされていることに気づかせる。②郷土の遺跡や遺物に関心をもたせながら、縄文時代の人々の生活や社会の特色を考えさせ、稲の伝来と北進では、社会生活がどのように変っていったかを考えさせる。(①・②下線教科書P.21～P.26)

(3) これからの日本史学習のために、資料展示物が(秋田県の歴史的な動きが)日本史全体のどこに位置付けられるかにふれる。
原始古代、中世、近世、近現代の四つの班に分けて、それぞれどんな展示物があるか(秋

3. おもな学習事項と時間配分

10:50～11:15 (25')	日本列島の生い立ち 秋田の深海時代と石油形成 …博物館の先生
11:15～12:00 (45')	人類の進化 先土器時代、縄文時代、稲の伝来と北進 …教科担任
12:10～12:25 (15')	古代、中世、近世、近現代の秋田の動きと資料…博物館の先生
12:25～12:45 (20')	各時代の資料を日本史全体の中に位置づける年表作成 …教科担任
12:45～1:00 (15')	まとめと整理 …教科担任

4. 諸準備

- (1) 目的とねらい(1)では説明を聞き、略図にメモする。
- (2) 教科書、ノート、分布図をみ、記入する。
- (3) 各時代の年表を準備し、各班に持たせ、記入させるようとする。(白も造紙)
- (4) 昼食
- (5) その他

Ⅱ 博物館学習の指導例

本年度実施した教科学習の社会科(歴史)の中、土崎南小学校および追分小学校の指導案・学習カード・反省事項を列記する。なお、2回目の追分小学校学習の際には、秋田県教育庁指導主事(天王町派遣)柴田次雄氏に参観していただき、指導助言をえたので文中に記しておく。

教科学習指導案(1) (追分小学校も同じ) 昭52.5.12

1. テーマ 秋田の原始と古代
2. 単元 (→)国ができるまで—(P38)～(←)天皇中心の世の中から貴族の世の中へ一人々のくらし(P59)
3. 対象 土崎南小6の1 42名 長谷部幸助教諭引卒
4. 実施日 昭和52年5月20日 午前中
5. 指導者 国安、庄内、解説員
6. 目標

イ、原始時代の生活を展示や資料をみながら理解させ、展示と展示を比較させて時代の推移を考えさせる。

ロ、中央と秋田の違いを理解させ、秋田の特色を考えさせる。

7. 学習計画

- イ、オリエンテーション案内映写 (解説員) 講 堂 30分
 - ロ、第一展示見学と説明 (//) 第一展 20分<10分休>
 - ハ、学習内容の説明と学習カード配布 (国 安) 学習室 10分
 - ニ、学習作業<グループ> (国安、庄内、解説員) 第一展 40分<10分休>
 - ホ、学習のまとめ<発表と意見交換質問> (国安、庄内) 第一展 40分
 - ヘ、他室見学 30分
- 3時間10分

8. 留意事項

イ、博物館はみるだけでなく学習の場であることを認識させる。

ロ、展示・資料に示された歴史を考えさせたい。

9. 反省と展望

イ、引率教師との意見交換

ロ、(7)のホと学習カード

ハ、解説員のまとめ

10. 備 考 ○学習室に考古資料を展示

(学習カード No.1)



8. <13と14の土器のちがいをみよう>

()

(15) 縄文時代の住まいと集落

9. これはどこですか

()

10. <13と15の住居のちがいを調べよう>

()

11. 人々はなにをやっていますか

()

(16)(17)(18) 装身具・呪術・大湯環状列石・墓制の変遷

12. どんなかざりものがありますか

()

13. 人形はなににつかったか考えよう

()

14. お墓のちがいをみよう

()

(20) 稲の伝来とその北進

15. 稲がうえられたことはなにでわかりますか

()

16. <秋田の稲作を考えよう>

()

17. 古墳からでるものを調べよう

()

※ () は展示のなまえ

< > はみんなで考えよう。

(11) 先土器時代

1. なにをやっていますか

()

2. いまのやり方とどこがちがいますか

()

3. 道具の特ちょうをみよう

()

(13) 縄文時代(岩井堂遺せき)

4. どんなところに住みなにをしていますか

()

5. ここにどんな道具がありますか

()

6. 土器はなににつかっていますか

()

7. <11と13のちがうところを考えよう>

()

博物館における社会科歴史学習の事例報告

18. <秋田の古墳の時期を調べよう> ()
() 20. <なんのためにつくりましたか>
(2) 城柵と開拓 ()
19. これはどこのなにですか

土崎南小学校 6年1組

実施事項

(1) 学習の説明(学習室)

学習の仕方を説明し、展示室表示の難解語句(先土器時代・装身具・呪術・墓制)などを解説した。また教科書の学習の内容との関連を確認する。

(2) 学習の作業(第1展示室)

グループに分れてそれぞれ学習カードのテーマを分担し、展示をみながら学習用紙にかきこむ。不明の点や質問を館員が応答し、時間のあるグループには他グループのテーマも考えさせる。

(3) 学習のまとめ

グループ単位で学習カードにかきこんだ解答を館員の指示によって発表させる。また館員が補足説明を行い理解を深めさせた。一応、予定したテーマ「城柵と開拓」まで行う。

反省事項

(1)問題量が多いせいか時間不足であった。(2)学習のまとめの時に質問の時間をもてななかった。(3)学習カードの設問がやや難解のものもあった。

まとめ

(1)児童は興味をもって熱心に学習した。やはり、展示や実物資料を通した学習は理解しやすく、学校教育ではえられないものがあることを感じる。(2)学校側の反省やまとめも近日中に聞く予定である。

追分小学校 6年2クラス 実施の結果

(1)館に最も近い学校であることや、博物館友の会(試行)に加入している児童もいるので入館回数も多く、館の珍らしさはない。逆に館員との顔見知りの児童もいるので気安く応答できた。(2)やはり児童にとってやや難解な設問があった。学習カードの設問を半分位にして応答によって問題を深めた方がよいと思った。(3)小学校の学習に不馴れな点が多く、もっと細い配慮が必要であった。

柴田次雄指導主事の助言(要旨)

- (1) 博物館学習の意義は、実物(展示・資料)を通してこそ効果があるもので、解説文を読まなくともできる設問にすべきである。とくに学校では活字や口で解決するのが通例であるが、博物館の独自性を生かした学習形態をとった方がよい。そして、実物と接する感動を大事にしたい。
- (2) 問題があって正解の順序は学校教育で常に行われていることであって、もっと考えさせる設問や方法がほしい。
- (3) 展示資料だけでなく、写真や図解などの補助資料を活用すべきである。
- (4) その時代の心情にふれる説明や、発掘調査のエピソードも織りまぜながら未知に対する興味をたかめ、また、文化財保護の教育もすべきである。
- (5) 時代感覚をもたせるために、紙テープなどによる年代の目安を示す工夫もあってほしい。
- (6) 学習室での最初の説明の際に、もっと興味をわきたたせる工夫をしてもよい。
- (7) やはり、学習量が多いと思う。

教科学習(社会)学習指導案 昭52.10.25 県博

1. テーマ 江戸時代の秋田
2. 大単元 土農工商の世の中
3. 対象 土崎南小学校6年4組 42名 石塚美智子教諭引率(2組・3組もほぼ同じ)
4. 実施日 昭和52年10月29日(土)

5. 指 導 者 本館職員(国安・解説員)

6. 学習室の参考資料

年表、おい、じょうじ、合羽、笠、銭箱、書類箱、六郡絵図、久保田城下絵図、参勤交代絵図

7. 目 標 (イ) 秋田の資料を通して江戸時代の理解を深める。

(ロ) 江戸時代の秋田の推移を理解させる。

(ハ) 展示および資料を通して歴史背景を考えさせる。

8. 学習計画 (イ) 9.30～10.00 導入および学習方法の説明 学習室

(ロ) 10.00～10.30 7つのグループに分れて作業 第1展示室

(ハ) 10.30～10.40 休けい

(ニ) 10.40～11.20 学習のまとめ 第1展示室

(ホ) 11.20～11.40 映画(秋田駒ヶ岳の噴火) 講 堂

(ヘ) 11.40～12.10 他室見学

9. 反 省 (イ) 引卒教諭との意見交換

(ロ) 解説員の意見

(ハ) 感想文

(学習カード No.2)



※ () は展示の番号です。

< > はみんなで考えよう。

- 例 1. これはなにをしているところですか。
 ()
- 新田の開発 2. 新田の開発をしたのはだれですか。
 すすむ ()
3. どんな場所が開発されていますか。
 ()
- 例 4. この甲冑はだれがきたものですか。
 藩政をさ 5. 秋田藩はなにでくらしをたてていましたか。
 えたもの ()
6. 農民がやっていけないことをしらべよう。
 ()
- 例 7. この絵はどんなようすをあらわしたのですか。
 村の荒廃 ()
8. なぜこのようなことがおこったのでしょうか。
 ()
9. 作業をしていることをみて、今とちがうところをあげましょう。
 ()
- 例 10. ここにある人形はそれぞれどんな身分ですか。
 生活と文化 () () () () ()
11. 身分のちがうところを人形でしらべよう。
 () () () () ()
12. 支配される人が刀などをもってはいけないときめたのはだれですか。
 ()

- 例 13 これはなにをしているところですか。
 定期市に 14. どんなものが売られていますか。
 ぎ ()
 わり ()
15. 秋田から輸出したものと輸入したものをしべよう。
 輸出 ()
 輸入 ()
- 例 16. 佐竹義和はどんなことを命じていますか。
 新しい時代 17. ききんの食べものをしらべよう。
 の動き ()
18. 羽後町ではどんな場所の人が多く死亡していますか。
 ()
19. 戒名のいみを考えよう。
 ()
- 例 20. 今の砲弾とどこがちがいますか。
 秋田の近代 21. 袖印を、なぜつけたと思いますか。
 化 ()
22. この戦いとき農民はどうしていましたか。
 ()
- <23.> 例と、例と、例の3つから考えついたことをかこう。
 ()
- ④ この3つで中心になるのはどんな身分の人ですか。
 ()
- ⑩ この3つをみて、村がどう変わったか考えよう。
 ()

※(番号)は展示テーマ

博物館における社会科歴史学習の事例報告

実施と結果

1. 学 級 土崎南小学校6年2組 42名
2. 計 画 前述「教科学習（社会）指導案」参照のこと
3. 学習計画について
昭和52年5月20日（土）実施の土崎南小学校6年1組および5月30日（月）実施の追分小学校6年の反省と、柴田次雄指導主事の助言によりつぎのように計画した。
(イ) 学習室に実物資料を展示して、「物」をもっと身近なものに感じさせること。
(ロ) 略年表を学習室に用意し、時間感覚と秋田の江戸時代を理解させるようとした。
(ハ) 順序としては(イ)をみながら歴史学習の導入をし、(ロ)によってアウトラインをはあくさせるようにした。
4. 結果と反省
(イ) 学校の数倍以上の展示および実物資料を中心とした学習であったため、児童は興味深く学習していた。
(ロ) 学習カードの設問事項には難解なものもあったようだ。これはテストの正解・誤答を求める観点からではなく、考えさせる設問をしたせいもある。
(ハ) 学習室の資料をもっと有効に利用した学習を行うべきであった。
(ニ) グループは自分以外の課題をあまりやろうとしなかった。
(ホ) 他室見学に興味をもち、少々時間を多くとった。

1. 学 級 土崎南小学校6年3組 42名
2. 計 画 前述「教科学習（社会）指導案」参照のこと
3. 学習計画について
(イ) 学習カードの設問を考える項目をふやした。
(ロ) 映画「秋田駒ヶ岳の噴火」を後回しにした。
4. 結果と反省
(イ) 学習室の資料学習は、大名行列絵巻については人数を数えさせたり、道中合羽を着用させたりしたので、資料にかなりの接近感をもったようだ。
(ロ) グループ割り当て以外の設問はあまりやらなかった。指導すべきであった。
(ハ) 学習カードの最後の設問は難解であるようだ。

1. 学 級 土崎南小学校6年4組 42名
2. 計 画 前述「教科学習（社会）指導案」参照のこと
3. 学習計画について
(イ) 大筋は前と同じ学習計画であるが、学習室で資料にふれさせることを積極的に行う。
4. 結果と反省
(イ) 従来の4回と比較して、学習作業の時間が一番長かったが熱心にやった。
(ロ) 学習後の担任との話し合いの中で、学校の学習でも因果関係をはあくさせることは難しいという意見がだされた。その意味で学習カードの最後の問題はやはり難解であった。
(ハ) グループの討論をもっと積極的に指導すべきであった。
(ニ) 解説員からかなりの協力をえて実施したが、非常に効果的であった。

Ⅲ 博物館学習の展開

以下のべるのは、教科学習を実施した土崎南小学校6年4学級・追分小学校6年2学級（1回）・秋田南中学校1年1学級、課題学習を実施した由利中学校1・2年5学級・皆瀬中学校2年2学級・上小阿仁中学校1年3学級の感想文と学習カードやく425人分から1つの視点でひろいあげたものである。

1. ジオラマ・模造について

驚き・感動 「人形や墓石が本物と思うほどよく似ていた。墓石は最初は本物だと思っていたが、後でニセ物の模型とわかってびっくりした。土農工商などの各人形も今にも動きだすのではないかと思えてさわれなかった。」（土崎南小・前田啓子）ジオラマや模造の効果は、まず本物そっくりという驚きや感動であろう。それが知りたい欲求をかりたてると思われる。さらに児童の表現をあげると、ほんとうに人の骨だと思ひあせったが、本物でないのではとした。また、本物かと思ひはとした。本当はすこしこわかったんですが、やっぱり人形だとわかるとぜんぜんこわくありませんとか、ジオラマをみて紙に答えを書くのもわすれてながめ回した、というのもある。

理解しやすい つぎに理解しやすい点もジオラマ・模造の特色であろう。人形があまりにもふんいきがでていて、とてもわかりやすかった。人形に囲まれてむかしの世の中にもどったようだ。テレビの画面のようだ。タイムマシンで行ったような気分でもわかりやすかったというように、場面のふんいきを感じとった児童がいた。またなにが理解しやすいかという点では、人形が実物の大きさで、その時代の服装や道具で生活ぶりがわかった。風景がよくできており、その下や横に説明がはいっていたのでわかりやすかった。また、ノートをまとめるのもやりやすく、とても便利でしたということや、歴史の勉強は想像してただけでよくわからないこともあったが、博物館にきて展示物や説明ではっきりしたという生徒もいた。さらに人形などから江戸時代の身分制のこと、江戸時代の秋田のことや、時代の特色を理解したもの、時代の違いや、細部にわたって比較してその違いを発見した例もある。

立体的表現 このジオラマ・模造製作に関する意見は、「よくくふうしてあるなあ」（土崎南小・石田幸子）というものや、平らなものを立体的にかなり工夫しているとするもの、館の装置的な展示のあることを感心するものまたジオラマが生活の仕方の細部まで表現しているとみた児童・生徒がいる。総体として、博物館は社会の歴史や理科の好きな人びとにはもってこいの場所であるとし、ジオラマや資料をみていると、自分でもこういう研究をしてみたいというのもいた。

2. 実物をみる・ふれる

珍らしさ つぎに実物に接しての感想であるが、「おどろいたことは、博物館にむかしの人が着ていたものが本当にあったということです。」（土崎南小・船木成子）や、ふだんみられないものを見て、とても勉強になったというもの、昔の人が使ったものはとてもめずらしいとかいた児童がいる。これは模造に対する驚きと共通する面があるが、学習のはじまりはやはり「もの珍しさ」であって、この心情を第一に理解すべきであろう。さらに感想を続けると、実際に本物をみているとその時の様子が頭に浮んできそうな感じであり、実物にふれたり、中をあけてみたり、かぶってみたりすると忘れないし、学校の学習にも活用できるとする。また、学習室の資料をみて、博物館にはまだいろいろの昔のものがあるとかいた児童がいた。やはり、ふれることの意義は大きい。

学校との違い 学校での学習との相違点としては、学校では本とにらめっこして、ときどきやる気をなくしてしまうこともあるが、やはり博物館だけあって、むかしの物や説明などが多く、それを目の前にすればやる気がでてくるし、わからないことも全部書いてあるのでうれしいという。現在、学校では視聴覚器材や模型を多く導入した教育が行われているが、やはり、学習の目的によっては博物館の展示・資料の方が効率の高い学習を行うことができるであろう。また「ここにきて教科書にはないこともわかったし、文章を読んで知るより見て知るのは、論より証こ、にかなっていて本当の勉強といえると思う。資料を活用する楽しさを味わった。」（土崎南小・前田啓子）の文が適切な表現をしてくれる。また、教科書や参考資料とひと味ちがった学習をしたという生徒、学習のまとめになったし、復習にもなった。教科書や他の資料でわかりにくいところは、実際にみてよく理解できたとし、楽しくまた覚えやすく、調べやすいとしている。

学習の補助 学校の学習との対比において、なにがよく理解できたかという点では、学校ではみられない原始時代の狩や住居の様子を理解した。今社会でやっている日本の国土の成り立ちや、BC3・2世紀ごろの生活や、教科書で徳川家康や全国的な動きを中心に学習しているのでその時代が理解できた、というようにそれぞれ学習している時代の理解に役立ったものと思われる。

秋田の学習 また歴史上の秋田の理解については、教科書では日本全国のことや江戸の町ばかり学習しているが、博物館にきて江戸時代の秋田のようすや、佐竹氏の移住や秋田藩のことを学んだ児童、そして、今まで気づ

かななかった、ちょっと違った秋田をみたというのもある。また「秋田は日本全体から見るとあまりめだたず東京などからくればると開発がおくれている。大むかしの石器や土器などもあまり発見されていないと思っていました。ところが博物館に行って見て秋田にもいろいろないせきやむかしの人々がつかったりしたものなどたくさんあるということをつくづく思いました。もし、私が博物館に行かなかったらそのままちがったことをおぼえて自分がすんでいるところの歴史をあまり知らないでいたかもしれません。」(秋田南中・渡辺洋子) 現在、開発が遅れているし、原始時代も人が住んでいないと判断したのか、いづれ自己の住む秋田に対する無理解さを反省した生徒もいる。

3. 学習の方法

学習の姿勢 「博物館にきていつも、ちらっとみたり」(追分小・佐藤司)「館内をブラーッと歩き回っただけ」(土崎南小・岩谷久)で、「先土器時代とか縄文時代のことなど目にもとめなかった」(追分小・石井淳)が、「今回はただ見るだけではなく勉強をしにきたのだ」(土崎南小・石川由美)から、一つ一つをじっくりみて回り、よく考え自分の頭に入れた。そこで新しいことがわかり、今まで気がつかなかった時代の違いや、使うものも違うことがわかった。

そこで、こんなに勉強に役立つと思わなかったし、館の人がいろいろくわしく説明してくれたのでとてもよく理解できたとする。まだ思考力の固まっていない、また知識量の比較的少ない児童・生徒に対しては、少しのヒントを与えることにより、学習の効果が質的に高まることを教えてくれる。

学習カード つぎに博物館学習の具体的方法であるが、館員が説明するなどいろいろあると思うが、秋田県博では児童・生徒に自分で調べさせ、考えさせるためつぎの学習カード方式をとっている。以下その学習例をあげよう。「学習室に行った。ぼくたちのつくえの上にはプリントがあった。みてみると、むずかしそうな感じがしてきんちょうぎみだったが、説明をきくといいにかんたんだった。」(土崎南小・高橋幸太)そして「ぼくたちのはんは城柵と開拓だ。学習室で手わたされた紙には問題がかいてあって、調べながらそれにこたえていくしくみだ。あとでどういうふうに書いたか全員で答えをまとめあう。」(土崎南小・加藤寛明)実際の学習については「そこがわかったけれども(4)のところがわからなかった。けれどみんながんばっているからわたしもがんばろうとしたのでわかってとても勉強になった。」(土崎南小・加藤厚子)その結果、年代とか展示資料を調べたり考えたあとで、あだだったなあと理解が深まりそう簡単には忘れなるとし、「一番役に立ったのは班ごとのテストだった。」(土崎南小・跡部緑朗)と述懐する児童もいる。

グループ学習 これは必ずしも博物館学習で行うべきであるということではなく、学習の方法として行った実例報告である。「わからなかったこともわかった。たとえば『秋田市に近いところではどこで戦いがありましたか』という質問などにもほとんど班の人たちと一しょに調べるとわからない問題もわかった。」(土崎南小・園辺美穂子)また、みんなでまとめ、それを聞いたり、話したりした例もある。しかし、反対にグループ行動の際に、ぶつぶつ文句をいいながらやったので一番おそくうさかった、というようにまとまらないで終わった例もある。しかし、多くは難しい問題であればみんながよく解説文を読んだり、館員からヒントを与えてもらったりまた説明を聞いたりしたのでわかった。また、みんなで一生けん命に考えるのは楽しい、難しい問題であったが反対に面白い。また、まとめの学習は全体のことがよくわかりとてもよかったという。そして「グループで勉強して、みんな考えて協力する、ということもここでの大事な勉強だ。」(土崎南小・前田啓子)という意見にグループ学習の意義が集約できよう。

4. 理解度について

昔と今の比較 課題学習や教科学習を行った児童・生徒はどんな理解をしたか、最初に単純に昔と今を比較した例をあげよう。「昔の人は神像などを作って村をまもってもらうように、神様を信じていたんだなあということを感じた。」(上小阿仁中・小林美津子)ということ。江戸時代の農民や漁師の服装が粗末なので、今の生活と大きな差があることや、服装といい土器といい全然違うのでむかしと今の違いがはっきりわかる、現代の町と昔の町を比べてみるとあまりにも差がありすぎる。現代の町は人も車も建物もにぎやかで、昔の建物は小さくて古いとみた児童もいる。また昔は機械がなく自分達の力でやっていくということは、今の時代では考えられないことだとし、具体的指摘として、昔は馬を利用して田畑の仕事をし、今は耕うん機を使って楽に仕事をしているというのがあった。また、秋田の稲作はあまり生産があがらなかったし、稲作も盛んではなかったけれども、今は稲作

りも盛んで生産もあがっていることがわかったとする例もみられる。さらに日本の政治のうつりかわり、秋田県・日本の歩みがもろもろあらわれている。時が流れるにつれていろいろなことが変わってきた、というように、単に昔と今の比較にとどまらず、時代の動きを総体的にはあくしたのものもある。

原始時代 原始時代の理解については「1匹のけものを5・6人でたおすことがどんなに苦しく大変なものかなんとなくわかるような気がしました。この時代はてっぽうもなく、みんな自分たちの手で作った武器だったので、どんなに協力して1匹のけものをたおしたか、その苦心がわかりました。」(由利中・畠山和江)というもので、やりしかなかったのがだんだんあとになって弓ができたと発展的にとらえた例もある。また、原始時代の食糧については、「食べられる動物がかわいそうでしたが、その時の人々にとって大切な食糧なのでしかたないだろうな。」(菅瀬中・高橋睦子)や、野生の動物をひきさいて気持悪くないのかと思うもの、1匹の動物を数人でとったあとで、分けあったらどうか?と疑問をもった生徒もいる。土器については、きれいに縄文のあとがあったのですばらしいと感じたもの、大きいもの小さいもの、底のとがったものなどがあるというように器形に関心をよせたもの、また、縄文土器でも必ずしもなわのものがついているわけではないことを理解したもの、土器の時代の変化に注意したものもいた。

江戸時代以降 江戸時代については、きつねの足あとを手がかりに新田を開いたのは面白いというものの、開発された場所は秋田郡・平鹿郡が多いということ、グラフを注意深くみて理解した例もある。また、身分制については、身分の違いが服装や食事の違いでわかるとした児童もいる。戊辰戦争に関しては「農民は身分が低いため、戦争の時に凶作と重税でたいへん苦しんだことなど、私達の住んでいる秋田の昔のことがよくわかった。」(土崎南小・上松留重子)や、太平洋戦争中の食料のまずしさ、戦争に行く人の服装がわかったというものもある。

5. 歴史を学ぶ

昔の厳しい生活 学習した児童・生徒が展示を通して昔の生活をどうみたかという点を取り上げよう。まず、総括的表現として「昔の生活はとてもまねのできないほど苦しいものだと思う。」(秋田南中・佐藤純子)それは、「はきものはわらを使ったぞうりにかみはみだれてきものはぼろぼろ」で、「家も田もなく子どもをつれてかなしそうに歩いている農民の気持がよくわかった。」(土崎南小・佐々木雅則)と、江戸時代農民を具体的にこいた児童がいる。このように江戸時代の農民の苦しさを感じたものが多いが、中には「武士は自分より身分の低い人にいばって金ばかりつかっているが、けって苦しいことがないとはいいきれない。参勤交代についていく武士たちは自分のお金をほろってまでとの様について行かなければならない。」(土崎南小・白瀬美波子)として、武士の苦しさを取り上げた例もある。

現代のよさ その昔の人びとの苦しさに比較して現在を考える。すなわち、原始時代をみてこんなざんこな時代に生れなくてよかった。着物を作るのに昔は手織りでやっていたので、今の方がとても楽に仕事ができる、とてもしあわせな時代に生れてきたとし、江戸時代の商人だったら農民たちに食物をあげたい、たくさん食べさせたい、という同情心をもった児童もいる。

昔の人のたくましさ また、江戸時代の飢饉などの時には、自分達であればとてもりこえられないと思う、という切実感をもつ例がある。さらに先史時代の狩の表情が活気がみられる、日やけた体が力強い、私たちよりたくましい、しゅうねんをもやして一生けん命たちむかっている、勇敢で自分達の家族や仲間または自分達の社会を守るということがあらわれているようだ、というように生きるたくましさを感じとった。さらに基本的には同じ感じ方であるが、ひたむきな生き方に感動した人もいる。「第一展示室の人々の生活のし方や秋田のおいたち、そんなものすべてが生活をしていくためのきびしさむずかしさをうったえているようにおもいました。暗い岩穴での生活、獣との戦、そんな毎日をくり返して今のような世の中が生まれた、これはとても努力のいることだと思いました。」(由利中・伊藤真由美)また、昔の人たちは人の力をかりないで自分の力だけで生きようとしたと思ったもの、「みんなで協力しあえばどんなことでもできるということを教えられたように感じます。それに最後までやりとげるといすばらしい勇気も現代の人は昔の人々に比べてあまりにもぜいたくな生活をしているように思います。」(菅瀬中・藤生久美子)のように、協力・努力そして現代人のぜい弱さを指摘した生徒もいる。

時代の発展 「何度かの活動(火山?)によってつくられてきた由利町秋田県そして日本、私達の生活する場所ではその活動によって時には多くのぎせい者をつくりだしたり悲しいでき事の中でできてきたんだなあと思いました。またその時代その時代に一生懸命に生きてきた人達の復元をみて、ひたむきな姿に心を引かれまし

た。」(由利中・板垣小織)や「昔の人は生活するために米にたよって新田をつくり大変な働きをして今の秋田にしているのだと思いました。それに秋田は米のとれる県で有名である。それもこの人たちの努力がみのって今の秋田になっているのだなと思った。」(皆瀬中・高橋武芳)ともに歴史の歩みは直線的なバラ色ではなく、いろいろな障害をのりこえて発展したものであることを理解した好例であろう。

先覚者群 そこで、生活を支えたものは何か、歴史を進歩させたのは何かということに対しては、すでに前項で取り上げたように、先人のひたむきな努力が基底となるわけであるが、さらに昔の人の工夫をあげたのが数例ある。そして「この時代(先土器)の人々は考えて物を利用している。」(皆瀬中・高橋義広)や、「このごろの時代になるとよほど頭のよいものがかなりいて生活にうまく活用できるものを少しずつ考え作っていったのではないかと思った。」(土崎南小・齊藤恵利子)と、先覚者群の存在を考えついたものもある。さらに「昔の人たちだからといって頭のわるい人たちはばかりだと思っていたらその人たちなりにりっぱなちえとゆうきをもっていたことがわかった。」(皆瀬中・阿部ゆみ子)のように、展示学習によって自己の認識を改めた例もある。

明るさ また、生活の厳しさの中に別の面のあることを展示からうけとった例もある。原始時代は土器・石器を使用する生活であるが、「でもそれなりに私達とはずいぶんちがう楽しさがあったと思う。」(土崎南小・齊藤恵子)や、「定期市にぎわう」のジオラマで「農民はとても苦しい生活でも市などを開いて明るくさわぐこともあるのでとてもいいと思った。」(土崎南小・後藤規子)のように、生活のリズムを感じとっている。地域博物館の歴史展示は、その地域の多様な生活断面を一つの流れに沿って表現することが望しいわけであるが、それを感じとった一例である。また、「定期市にぎわう」のジオラマをみて「このごろは前とちがってお金さえあれば生活が成り立つということから表情にも前の時代のようなきびしさは感じられなかった。時代の流れは人間の生活をすぐかえるものだった。」(皆瀬中・中山雅博)、これは多分、原始時代と比較してのことと思うが時代の表情をよく観察したものと思う。

問題の発見 「見についてわからないことなど自分で調べたいと思う。調べたいことは、何時代になって肉食をしなくなったか、どうしてやめたか、それから何を食べるようになったか。」(土崎南小・阿部美加)と自分なりに問題を発見した例がある。

想像 また、人類の歴史の短かさを、地球の歴史が9メートルあるのに対し「人類の歴史はわずか4ミリということは、この自分の人生なんかは見えないほどになると思うと信じられないし、また、こんなにちっぽけなものかなあとびっくりした。」(土崎南中・小徳弘明)と表現した生徒、また「城柵と開拓」を調べ「中央には城柵の模型が作ってあった。ぼくは家の前にあるへいがむかしの城柵をヒントにして作ったものだった。」(土崎南小・高橋渉)や縄文時代の「住いと集落」のジオラマをみて、「注意して見るととても今のくらし方とちがう。しばらく見ているといろいろな想像がうかんできた『この家の中はがらんとした広いところだろう』『今、文明がおくれているとこういう住まいだったらどうなるかなあ』など思った。」(土崎南小・小野幸平)と、こどもらしいいろいろな想像をしたものもある。

考える 「こんな昔の農民のことや武士のことがよくわかったのは博物館について昔の人々が使った道具や書物などを自分の目で一つ一つ見たりそばに書いてある説明を読み考えたしかめてからである。教科書で学習したことを博物館で一つ一つ古いものを見ながら考えを深めなぜこんなことをしなければならぬだろう。このあいだの私の考えはちがうのではないだろうかと考えを深めさせたりまた新しい考えを出したりする。教科書も大切だが昔の土器などを見て考えをさらに深めたりするのに博物館は大事なことだと思う。」(土崎南小・塩屋裕子)のように学校での学習を基礎として、博物館で考え方をたしかめ深める学習を提起した例がある。また、「博物館は資料の山だ。いろいろな事に興味をもち、いろいろな角度で見ているとおもしろい事ばかりわかってくる。また、もっと知りたいという欲望がわいてくる。何回見ても考えさえかえればあきないだろう。博物館はいろいろな事を教えてくれる不思議な所だなと思った。」(土崎南小・門間美樹)これは、一回きりの見学で終わせない博物館ということ、われわれ館員が常に課題としているのであるが、この児童は展示や資料の観方を教えてくれた好例である。

6. 展示に対する希望

現在の秋田県博の展示で「動くもの」を若干取り入れているが、これに対する興味・関心が高く、感想文にも多くの児童・生徒が書いているし、また希望する声も多い。この外、昔の人の生活資料をもっと多くしてほし

い、たとえば織機の様子をもっとくわしくしてほしいなどの具体的希望もあった。また、原始時代の資料に関して「この・・・は今の・・・にあたる、のように説明を加えたら」（由利中・伊藤美知子）もっとわかりやすくとか、「原始時代のくらし方についてももっとくわしく説明したカードを入れてもらいたい。」（由利中・渡辺ひとみ）のように、もっと理解しやすく、またくわしい説明を希望する意見もある。

さらに「秋田県のものばかりではなく、ほかの県やほかの国からもいろいろなむかしのものを入れてほしい。」（由利中・熊谷篤）のような希望や、「むかしのものばかりでなく、みらいをそうぞうしたものや、うちゅうのこともたくさんじゅんびして下さい。」（由利中・多田豊一）のように希望は多面的である。

7. 若干の結語

博物館は館の基本的方向をもち、常に反応を確かめながら博物館活動を行うことが正しい姿勢といえよう。今回、各校のご協力によって、課題および教科学習実施の結果を知ることができたのは非常に有益であったと思っている。とくに、これらの学習が本年度最初の試みであったので、児童・生徒がどのような反応を示すか未知であったので非常に参考になった。

この学習のねらいは冒頭でのべたように、社会科歴史学習の補助的役割と、地域史学習の一助となることを念頭において立案し実施したものである。この結果は、ジオラマ・模造そして実物に接した「驚き」「感動」が知りたい欲求をおこさせるようである。それが、無目的に館内をさまよい歩く姿勢ではなく、学習カードによって問題がしぼられているから学習の目標が明確である。そこで、具体的な事象の理解、そして背景となった時代認識へと展開する。さらに思考を深めて歴史の発展を知るようになると思う。

社会科歴史学習の究極の目的は、明日への意志と方法を学ぶことにあるのではないかと、感想文をみながらつくづく考えさせられた。確かに児童・生徒の表現は、昔の人の生活の「きびしさ」「たくましさ」「明るさ」ひたむきな生き方など、観念的な表現をしている。つまり、歴史を教訓的にうけとめているのではないかと思われるふしもないではない。しかし、彼等が過去から学んだものとして凝集した形で明日への糧を確認したのではないだろうかと思える。確かに歴史の論理・発展方則をストレートに表現したものはいい。だが、その準備はできているものと感じとった。

さらに、児童・生徒のうけとめ方は多様であり、また段階差もみられる。ここで対象となったのは小学校6年から中学2年までで、その学令差は認められる。しかし、必ずしも理解度や表現法が学令差と同じでないことは周知の事実である。今回の実施は、個々の児童・生徒の発達度を理解した上での指導ではなかった。こうした指導の方法は学校教育で行うべきか、また、博物館で個別に指導するのが望ましいのか、博物館学習の守備範囲および学校教育との結びつきの仕方を改めて考えさせられる。

私共館員は以上の結果をふまえて、博物館学習の方法を検討し鍛え直すべきであろう。現在考えられる内容は、①学習カード、設問の適・不適やレベルを見直す必要がある。②学習の仕方、これは館員の配置や学習の進め方、また、児童・生徒との応答などが含まれる。③感想文のとり方、自由記入がよいのか、または項目設定がよいのか、その方法の検討が必要である。④展示、博物館の展示がすべて児童・生徒を対象とするものではないが、このような学習を継続する以上は考えざるをえないし、学習室での資料提示または補助資料の検討も必要である。⑤学校との協議、事前協議は一応実施してきたが、やはり互の立場の話し合い、または多くの情報量を与えることなどにより、さらに効果を高めることができよう。